

ケース学習のまとめをしておきましょう。

ダイナミクススクールで、ジェレミー・シェア先生は、ケースを取ったら、「前分析」をしてから「本分析」をすることを勧めています。「本分析」では、特徴的な症状を1枚の紙にすべて書き出して、全体を眺めることを提案しています。

①「Case Taking」--->②「特徴的な症状を捉える」--->③「前分析」--->  
④「本分析」--->⑤「統合（病の中心は何?）」--->⑥Rep.--->⑦レメディの決定  
・・・という流れになります。

「本分析」の後には、そのケースを統合して箇条書きにして、そのケースにおける「病の中心」を表現してみると良いと教えてくれました。

ケース学習の取り組み方の順序は、以下の通りです。

1. まず、ケースを一読して、ケースから受ける①印象を書き留める。
2. 再読して、クライアントの特徴的な点（症状）をピックアップする。
3. ピックアップした特徴的な点の全体を眺める。
4. これらを元に、「前分析」を試みる。（正確に分からなくても良いです）
  - ②健康度（0～10）
  - ③予後（良いレメディがある時／ない時）は、どうなるか？
  - ④救急性（急性か慢性か～救急性があれば、まずはそこから始める）
  - ⑤治癒を妨げているものの有無は？      ⑥親和性（部位）
  - ⑦マヤズム傾向（Psora Syphilis Cancer TB 等）
  - ⑧全体性（ケースでの乱れはどこにあり、レメディはいくつ必要になるか？）
  - ⑨バイタリティー
5. 本分析＝「何が癒されるべきか？」（病の中心 **Wesen**）をとらえる。  
5～7つの箇条書きにする。出来たら「統合した1文」にまとめる。
6. 「何が癒されるべきか？」から外れない症状を Rubrics として選び、レパートライズ (Rep.) する。
7. Rep.表の候補レメディから、ベストレメディを選ぶ。
8. 最終的には、ポテンシーとドーズを決めて、クライアントに提案する。

さて、ケース学習では、この教室を出たら、決して、その内容について話すことなく、守秘義務を守って下さい。      では、始めましょう。